

地球温暖化対策計画（案）に係る意見（概要版）

項目	意見内容
全体	<p>➤ 「エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素の同時実現を目指すGX政策と協調」との記載のとおり、GX2040ビジョン、エネルギー基本計画、地球温暖化対策計画が整合的な形で、今後の具体的政策が展開されることを期待。</p>
次期削減目標	<p>➤ 本計画案に記載されているとおり、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素の同時実現を目指すGX政策との協調や脱炭素化に伴う社会全体のコストを最小化する視点で気候変動対策を推進することが肝要。</p> <p>➤ 今回の議論の前提である現行の2030年目標は2050年目標と整合的で野心的な目標として設定されたものであり、加えて今後の革新技術の開発や脱炭素製品・サービスの普及の時間軸、目標達成に向けた経済合理性を踏まえれば、後年度に急速に削減が進む上に凸の経路がより現実的。</p> <p>➤ 他方で、1.5℃目標との整合性や我が国の気候変動問題に対する国際社会への貢献姿勢を確りと示していくことの重要性も理解。</p> <p>➤ これらを考慮すれば、2050年ネットゼロに向けた直線経路に基づく次期削減目標案は妥当であると考え。ただし、脱炭素技術の導入から社会全体の行動変容に至るまで、様々な不確実性が非常に大きいことを踏まえれば、削減目標は、目標達成に向けた施策も含め硬直的なものせず、技術革新・普及の見通しや気候変動問題に係る国際情勢等を見つつ、柔軟に見直していくことが必要。</p>
電力分野の二酸化炭素排出原単位の低減	<p>➤ 排出量取引制度の導入が決定される等、電力の自主的枠組みや高度化法・省エネ法における政策的対応が導入された当時と状況が大きく変化している。こうした点も踏まえ、今後見込まれる国民負担の上昇を抑制する観点等から、政策目的に照らしたより効率的な規制体系となるよう、既存の制度等の在り方について総点検を行っていただきたい。</p>